



第55回記念 書玄展
第5回 公募書玄展

と き:令和元年5月8日(水)~12日(日)

ところ:愛知県美術館ギャラリー8階J2室

本年は「川端康成を読む」をテーマに、役員作品から会員の小額作品まで合わせて二〇一名の作品を展示しました。

流麗で繊細かつモダンな加藤裕代表の「春景色」、ノーベル賞の授賞式でのスピーチ「美しい日本の私」を作品にした阿部秀峰、スピーチの内容から川端の好んだ言葉をイメージした後藤啓太の「和顔施」など、川端文学を素材として心に残る言葉や思いを、会員各々が作品に表現しました。

会場中央のガラスケースには、昭和四



十年にオリエンタル中村百貨店にて開催された日本ペンクラブ主宰文人書画展に川端康成が出品した色紙をはじめとし、入手困難な『雪国』の初版本などを展示。作家の中河興一氏へ宛てた手紙は、律儀さとユーモアと人間味あふれる文章で書かれ、来場者の興味を集めていました。貴重な文化財をお貸し下さったK先生に心より御礼を申し上げます。

今回の公募部門の入賞者は、「書玄賞」後藤汀華・佐藤公華・福谷紅華の三名、「毎日新聞社賞」尾山由実子・高橋花柊・丹羽彩霞の三名となりました。

東京から創玄書道会副理事長の永守蒼穹先生、前愛知県知事の神田真秋様他、入場者数一二二八名と沢山の方々にお越しいただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。